



発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代 1385-18  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子

# 小網代通信

2020年 11月号 VOL-269

## 今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「KYC 会長メッセージ」	飯島 洋一(KYC 会長)	1ページ
・「第 58 回小網代カップレース開催報告書」	小川 健之(小網代フリートキャプテン)	2ページ
・「初期の小網代カップレース」	白崎 謙太郎(NADJA-5 世)	3ページ
・「第 3 回小網代カップレース(1965 年 11 月)の記録」	大谷 正彦(KELONIA)	3~4ページ

## 連絡事項(編集委員)

1. < お気に入りの一点 募集中 > お気に入りやはまっている事を写真で教えてください！！

### ■■■ KYC 会長(飯島 洋一)メッセージ ■■■

2020 年も残り 2 か月となりました。会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。  
近隣のヨットクラブを見渡すと、9 月頃より徐々に様々な活動が始まっているようです。  
小網代湾においても遊漁船のお客さんや小網代の森の来訪者など、人の往来が徐々に増えてきました。  
ヨットクラブの活動はと云えば、9 月までの予定は全て中止となり一夏をやり過ごしてしまいました。10 月に入り、状況を見ながらではありますが、クラブとしての活動を再開しています。

- ・10 月 18 日に再開した小網代フリートレースはレース委員会の事前の案内と参加者の意識により、クラブハウスとその周辺での密を避けることができ、参加者による感染拡大はございませんでした。
- ・10 月 31 日、第 58 回小網代カップレースは私たち小網代ヨットクラブがホストクラブとして運営しています。運営スタッフの3密を避ける様々な工夫をしてのレース開催となりました。
- ・11 月はハーバー整備と小網代フリートレースが予定されています。担当委員会の案内をご参照下さい。浮棧橋の件は新型コロナウイルスの影響で今年度の更新は難しい状況です。作業や話し合いなどコロナ禍でも可能な部分を行っており、2021 年中の更新を予定しています。

現在はクラブハウスの利用方法に臨時的な制約を設けていますが、通常の利用は可能です。  
初冬のセーリングを楽しんで頂きたいと思えます。  
(クラブハウス利用の詳細はホームページやクラブハウスの掲示物を確認して下さい。)  
最後に、2021 年のクラブ活動予定を各委員会で準備しています。来年も様々な制約の下で活動しなければならぬかもしれません。アイデアなどがありましたら直接総務委員にお話しを頂くなり、クラブの代表メールアドレスにお送り頂いても結構ですのでご提供下さい。

 【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 11 月 16 日(月) 20:00~web 会議開催予定】

2020. 11 月号-1

# 第 58 回小網代カップレース開催報告書

小網代フリートキャプテン 小川 健之

【開催日程】 2020年10月31日(土) 10:30 スタート  
 20:16 ファーストホーム艇 フィニッシュ  
 2020年10月31日(日) 22:40 最終艇フィニッシュ

【参加艇数】 IRC クラス 12 艇

【レース結果】 IRC クラス 優勝 FONTAINE ZERO 2位 propaganda 3位 GRAND BLUE  
 ファーストホーム CRESCENT IV

【レース概況】 10月31日早朝、前日の雨模様から一転しまさに秋晴れ、風は北の20~25kt でやや強いが、レースコンディションとしては申し分ない状況。

9時30分、レース本部のラジオチェックと並行してスタート本部艇でライン設置を行うもアンカーの効きが悪く、打ち直すこと3回、10時近くによりやく設置完了。

10時30分スタート、リコール解消した2艇を含め、全艇一路大島を目指す。レース本部では「スマホでヨットレース」を逐次状況チェック。先行艇は12時の時点で早くも大島に10マイル程度まで接近している模様。15時のロールコールでは、先頭集団は既に島の裏側、千波崎に達しており、VHF の電波状況が悪く過半数の艇が電話若しくはメールでの報告となる。その後風向は真東に振れるも風速は概ね10kt をキープ。スターボのクローズでほぼラムラインと重なる理想的なコンディション。



「スマホでヨットレースの画面  
もうすぐファーストホーム」

18時55分 CRESCENTIVからフィニッシュ60分前コール入電、その後各艇から続々とコールが入る。

20時16分ファーストホーム CRESCENTIVがフィニッシュし本大会のコースレコードをマーク。最終艇 GEFION フィニッシュの22時40分まで2時間半余り、当日中に全艇がフィニッシュする過去に例のない高速レースとなった。

コロナ禍の終息が見えない中、一時は開催も危ぶまれましたが今年も何とか無事開催することが出来ました。レースコミッティーに参加下さった皆さま、また周囲から様々な形でご支援下さった皆さま、今年も本当にありがとうございました。

2020年11月3日

***** RACE INFORMATION *****									
RACE Name		58th Koaziro Cup Race <th>Date</th> <td>2020/10/31 <th colspan="5"></th> </td>	Date	2020/10/31 <th colspan="5"></th>					
Class		IRC Class (Total) <th>Start</th> <td>10:30:00 <th colspan="5"></th> </td>	Start	10:30:00 <th colspan="5"></th>					
Course Type		OFFSHORE (65Nm) <th>Time Limit</th> <td>11/01 09:00:00 <th colspan="5"></th> </td>	Time Limit	11/01 09:00:00 <th colspan="5"></th>					
Race condition									
***** Entrant and RESULT *****									
三浦外洋セーリングクラブ									
Yacht Name	TCC	着順	Day	FINISH	所要時間	(秒)	修正秒	ペナルティ	
1 JPN6876 FONTAINE ZERO	1.102	2	10/31	20:20:40	9:50:40	35,440	39,055	---	
2 JPN4777 propaganda	1.050	6	10/31	20:54:47	10:24:47	37,487	39,361	---	
3 JPN6275 GRAND BLUE	1.057	5	10/31	20:52:17	10:22:17	37,337	39,465	---	
4 JPN6860 CRESCENT IV	1.125	1	10/31	20:16:20	9:46:20	35,180	39,578	---	
5 JPN5363 Andiamo 3	1.087	3	10/31	20:46:59	10:16:59	37,019	40,240	---	
6 JPN4832 INDICUM	0.962	11	10/31	22:08:15	11:38:15	41,895	40,303	---	
7 JPN6643 Fuchur 2	1.091	4	10/31	20:50:32	10:20:32	37,232	40,620	---	
8 JPN6735 VEGA8	1.028	10	10/31	21:38:04	11:08:04	40,084	41,206	---	
9 JPN380 Thetis 4	1.038	9	10/31	21:31:56	11:01:56	39,716	41,225	---	
10 JPN6793 MISS NIPPON VIII	1.089	7	10/31	21:04:44	10:34:44	38,084	41,473	---	
11 JPN188 CONTESSA X III	1.087	8	10/31	21:06:08	10:36:08	38,168	41,489	---	
12 JPN5955 GEFION	0.954	12	10/31	22:40:51	12:10:51	43,851	41,834	---	

## 初期の小網代カップレース

NADJA-5世 白崎 謙太郎

1963年故飯島元治と故渡辺修治が一献傾けながらこんなことを話し合った。

NORCの公式レースは4月初旬の初島レースに始まり、10月下旬の神子元島レースで終わる。「小網代フリートではもっと厳しい寒くなってからのレースをやろうではないか」、「それでは11月の最終の週末に大島を回ってくるレースとしよう」――。

このようにして始まったのが「小網代カップレース」で、当初は小網代フリート艇だけの参加で行われたのだ。それでも1963年第1回の参加艇数は記録を探せないのだが、当フリートだけで行ったにもかかわらず10艇以上はあったはずだ。その後も当フリートのレースとして続けてきたのだが、他フリートからも参加希望がありもちろん歓迎した。このように続けて約10年後故大儀見薫からこのようにヨット乗りに厳しい環境を強いるレースをNORCの本部レースとして譲ってくれないかとの提案があり、以後本部主催の公式レースとなったのだ。多い時に他フリートからの参加も増え50隻もの参加艇があった。艇も今よりはずっと小さく、当時の課税の関係から24.5フィートからさらに小型艇も多かった。ヨット乗りに厳しさを強いるレースがいかにも魅力あることなのを示す記録である。

昨日この小網代カップレース(第58回)が行われた。当レース初期の頃から見れば艇の性能も大きさも隔世の感がある。所要時間の新記録が出たようだ。参加艇は10艇ほどか、当クラブからは「テティス4」のみであった。開催日程も11月初めと早まり島回りの「厳しさ」はすっかりなくなった。夜間帆走があるレースはもはや風前の灯火だ。大きな原因は乗員の高齢化だろう。

不肖私の「ナジャⅡ」が最初に参加した当レースは船主・艇長の私が26歳だったのだ。今や当クラブのメンバーを見ても40代50代は鼻たれ小僧(笑)だ。

ふとこんなことを思い出した。50年も昔、週末の晩「さがみⅡ」の飯島元治さんから艇にいらっしやいとお招きいただいた。喜んでではせ参じると数人のクルーの方「ちろり」という日本酒のかん付け器が2個あった。その道具を初めて知った私はすぐ買い求めマネをしたものだ。

私の最初のクルーザー「ナジャⅡ」の進水式のときには渡辺修治さんと飯島元治さんがそれぞれご子息、康夫さんと要治さんを伴っていらっしやった。お二人とも高校生だった。

2020年11月1日記

## 第3回小網代カップレース(1965年11月)の記録

KELONIA 大谷 正彦

今回白崎さんに上記の記事を発行前に見せていただいた。そこで初期の小網代カップレースのレース記録を古い資料から探してみた。その結果、NORCニュースNO.7に第3回小網代カップレースのレース報告とレース結果があったので、その写しを次ページ以降に掲載します。古い色褪せた紙資料をPDF複写したものからの再複写なので読みにくい点があります。東京オリンピック1964の翌年、今から55年前の話です。小網代カップの初期の頃の雰囲気分かってもらえると思います。ちなみに、レース委員長の今井金次さんは小網代フリート<妙義>のオーナーだった方です。<妙義>は<飛車角Ⅰ>と同型艇(渡辺修治設計)で、泊地は、<TETHIS>と<仰秀>のあたりでした。

### **【第3回 小網代カップレース報告書(NORC ニュースNO.7から複写)】**

報告書本文を複写 貼り付けしようとしたが、文字が薄くて判別しにくい箇所が多々あるため、打ち直した(文章と文字は原文忠実)。



「1965年」小網代カップレース報告書

小網代カップレース委員長 今井金次

1965年棹尾を飾る第3回小網代カップレースは11月20、21両日予定通り小網代～大島～小網代のコースで挙行された。レースは参加艇13艇のうち7艇棄権、完走6艇は約2時間余りのあいだに全艇フィニッシュと云う熱戦で終始したが、参加艇の状況報告に依る経過は次の通りである。

20日10:00スタート直後2艇団となった参加艇は何れも風早崎東方海面を目指タックの連続で各艇互に交叉を繰返して20日の日没前後には大島の北東沖に到達した。其の後各艇は暗黒の大島東海岸を次第に吹き募る南西風と三原山の吹き下ろしを御して龍王崎を目指したが此の頃の海面は吹き続いた南西風の波長が大きく又表面流が強くなって各艇とも切り上りに大分苦労した様である。

17:00～19:00の間、千島沖1,002ミリの低気圧から南西に本州南岸沿いに延びる弱い寒冷前線が秒速20米の風と小雨を伴ってレース海面を通過した。然しオホーツク海にある990ミリの低気圧から南西に朝鮮に延びる前線があり南からの吹き込みがある為風向に大きな変化なくレース海面には依然南西が強く吹き続いた。

19:00 龍王崎を目前にして、さがみII、飛車角、サーモンIIはトラブルの為棄権を決定し、オリンパスIIも又艇員の疲労限界に達したのを知って棄権して舳を北に向けた。

22:00 前後龍王崎をかわしたシレナ、モサIII、かまくら、どんがめVII、チルデ、くろしおの6艇は龍王崎吹き出しの西風と強い表面流、更に加えて下げ潮に悩まされ乍らもタックの繰返して一寸きざみの詰めを行なった。そして、ついにシレナが龍王崎180°の線を越したのは21:30頃であったと想われる。

23:00 龍王崎90°の位置にあったジューンブライドは艇員疲労の為棄権、反転し葉山にコースを採った。伊豆東海岸と大島間の吹き抜けをコースとする帰路は夜間強風の為スピワークを行った艇はなく追手にのって各艇一路小網代を目指した。フィニッシュは21日05:46シレナの完全優勝をトップに約2時間余りの間に完走艇全艇が入る白熱戦で無事レースを終了した。今回のレース経過中特に暗夜の龍王崎近辺で参加艇の安全を確認し警戒された巡視船すみだの御厚意に感謝して経過の概要を終り以下にレース本部記録抜粋する。

レース報告書は以上で終わっているが、文末に記載されている「レース本部記録抜粋」の記事はコミッティ作業の細かい話が多いので引用を省略しました。レース結果も掲載されており、そのページを転写しました。参加艇:13艇(内小網代艇:8艇 外来艇:5艇) レース完走:6艇 DNF:7艇であった。小網代艇では、<モサIII>が2位に、<かまくら>が3位に入賞している。

No	艇名	艇長	TCF	着順	到着時	所要時間	修正時間	順位	備考
179	シレナ	武市 俊	.605	1	05.46'30"	19.46'30"	11.57'50"	1	1位 ファーストホーム
366	モサ III	吉田 義明	.600	2	06.06'10"	20.06'10"	12.05'42"	2	2位
319	かまくら	中戸 将治	.603	3	06.50'20"	25.50'20"	12.33'57"	5	3位
315	どんがめVII	渡辺 修治	.598	4	07.22'00"	21.22'00"	12.46'38"	4	
367	チルデ	J.JANSEN	.640	5	07.51'20"	21.51'20"	13.59'15"	6	
135	くろしお	金子 武男	.619	6	08.02'00"	22.02'00"	15.38'19"	5	
558	しをかぜ	福吉 信雄	.679	DNF					20日 10 30棄権
188	コンテッサII	石原慎太郎	.677	DNF					20日 16 00棄権
164	さがみII	飯島 元次	.633	DNF					20日 19 00棄権
199	サーモンII	富永 弘	.655	DNF					20日 19 00棄権
346	飛車角	周東 英卿	.596	DNF					20日 19 10棄権
327	オリンパスII	落合 公平	.584	DNF					20日 19 10棄権
334	ジューンブライド	松延 猛	.584	DNF					20日 23 00棄権

【第3回と第58回の所要時間比較】

完走艇の所要時間(1位～最終位)

第3回 19.46' ~ 22.02'

第58回 9.56' ~ 12.11'

風向 風速 海況等の違いはあるが、レース所要時間はおよそ半分になっている。

もはや小網代カップレースはオーバーナイトレースではなくなった感がある。いずれは日没前にフィニッシュする時代が来るかも――。

2020年11月5日 記